

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	食を通じた健康づくり推進事業			事業番号	01-104
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	保健福祉部健康づくり担当	井上 稔	健康づくり課	辻 雅弘	

計 画 (Plan)

総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち	
		基本政策	1	健やかに生き生きと暮らせるまちづくり	
		施策展開の方向	1	生涯にわたって健康に暮らせるまちをつくる	
		施策	1	自ら取り組む健康づくりの推進	
予算事業名	食育普及事業費		地域食習慣改善推進事業費		
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→			法令上の位置づけ	実施する規定はない
事業開始年度	開始年度	平成25年度以前 ~		終了年度	—
関連法令等	食育基本法、健康増進法				
国・県の計画等	第2次食育推進基本計画、第2次神奈川県食育推進計画、健康日本21、かながわ健康プラン21			計画期間	国：平成24年度-平成28年度、県：平成25年度-平成29年度
関連個別計画	第2次伊勢原市食育推進計画、健康いせはら21(第2期)計画			計画期間	平成25年度~平成29年度
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	国民の食生活においては、エネルギーや食塩等の過剰摂取や野菜の摂取不足等の栄養の隔たり、朝食の欠食に代表されるような食習慣の乱れが見られ、これらに起因する肥満などの生活習慣病や若い女性のやせ、高齢者の低栄養傾向等の健康面での問題が指摘されている。				
目的 (何をどうしたいのか)	すべての市民が生涯にわたって生き生きと暮らすことができるようにするための手段として、「食育の推進」は重要な要素であることから、子どもから高齢者まで幅広い年代に食教育や食相談などの知識を得る機会を広げることで、市民生活の質(QOL)を確保し、健康づくりを推進する。				
主な対象 (誰・何を対象に)	市民及び在勤者				
事業内容 (手段、手法など)	・全てのライフステージで間断なく食育を推進していくことができるよう、食育に関連した組織とのさらなる連携の強化を図り、市民の食に対する意識の向上に努めます。				
事業行程	項目	年度			
		28年度	29年度		
	食育推進の為の教育・相談	継続実施	継続実施		
	地域で食育を推進する人材育成	継続実施	継続実施		
目 標	【指標名】	【現状】	年度		
			28年度	29年度	
	栄養教育・栄養相談の参加者数	2,840人	2,850人	2,950人	



事業実施(Do)へ

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	食育推進連絡会議を開催し、前年度に実施した食育アンケート調査に基づき、食育に関する事業内容等の検討を進めるとともに、SNS等を活用しながら若者世代に対し食育情報等を発信する。 また、新たな事業として骨粗鬆症予防教室を開講し、骨密度が低い方を対象に食事改善の講話や個別指導を行う。		
実施方法 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> すべて直接実施 <input checked="" type="radio"/> 左記以外		
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者
	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金		補助先
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容
実施結果	項目	年度	
		28年度	29年度
	食育推進の為の教育・相談	継続実施	
	地域で食育を推進する人材育成	継続実施	
実施した取組の内容	食育推進の為の教育・相談(食育セミナー9回116人・思春期食育事業4回688名・血糖値セミナー1回23人・血液さらさらしなやかセミナー1回13人・ヘルスアップ相談16回54人) 地域で食育を推進する人材育成(ヘルスマイト養成講座8回延べ72人) ファミリー朝ごはんコンテストを小学校5、6年生の親子を対象に実施		
目標の達成状況	【指標名】	【現状】	年度
			28年度
	栄養教育・栄養相談の参加者数	2,840人	3,332人
			29年度

コスト	年度	28年度 実績				29年度 実績			
	事業費合計 (a)		1,782	千円				千円	
	内訳	国県支出金 ①	0	千円				千円	
		地方債 ②	0	千円				千円	
		その他特財 ③	136	千円				千円	
		一般財源 (a)-①-②-③	1,646	千円			0	千円	
	国県支出金の内容								
	その他特財の内容	受益者負担	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無		前回の改定時期				
		その他	料理を伴う健康教室(いせはら食育セミナー、血糖値セミナー)参加者の食材費、教材費						
	人件費	正規職員	1.69	人	14,619	千円		人	千円
		その他の職員	0	人	0	千円		人	千円
		人件費合計 (b)	1.69	人	14,619	千円		人	千円
	トータルコスト (a)+(b)		16,401	千円				千円	
	単位当たりコスト	対象数	定義		栄養教育・栄養相談の参加者数		単位		単位
			対象数		3,332	人			
		総事業費 / 対象数		4,922	円			円	

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	前年度と比較し、食教育及び食相談の件数が増加しており着実に健康と栄養に関する意識啓発が図られている。また、食育推進連絡会議や食生活改善推進団体との連携を図り生活習慣の改善を含めた健康づくりを推進した。
実施水準 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input checked="" type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	B	他都市の事業内容等	計画策定や諸会議の開催、諸事業においても他市と同水準で実施した。
有効性 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 高い (A) <input checked="" type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	B	左記判断理由	有効性の検証は長期的なデータ分析が必要になり、その指標についても検討が必要となるが、前年度との比較では食教育、食相談の件数は増加しており、着実に健康と栄養に関する意識啓発が図られている。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	食育事業をより効果的に推進するため、伊勢原市食育推進連絡会議において、第2次伊勢原市食育推進計画の進行管理と共に諸事業の検証を行った。


 取組の改善 (Action)へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	食育の推進には、家庭、保育所、学校などの多様な主体の連携・協力が不可欠であり、これまで以上に食育の大切さについて意識啓発を図る必要がある。また、食を取り巻く社会環境が変化する中においても、大切な食文化が失われないよう食文化の継承や、地元食材の地産地消の推進を図ることも重要な課題である。
次年度の取組方針		市民の健康維持・増進を図るため、料理コンテストを開催するほか、食育推進のための各種教室や相談を実施するなど食生活の向上を目指す。また、第3次伊勢原市食育推進計画[平成30年度～平成34年度]を策定するため計画策定委員会を設置し策定作業を進める。		
所管部長による総評		食育の推進に当たっては、年代やライフスタイルに応じた望ましい食習慣の普及啓発を図るため、引き続き、様々な関係者がそれぞれの特性を生かしながら、多様に連携・協働し、更なる食育推進を行う必要がある。		